

# 地域と心をつなぐ小学校



山形県の南東にある高畠町で地域と心をつなぐ小学校に出会いました。

この冊子は、高畠町に来た地域おこし協力隊が高畠町立二井宿小学校を訪問した記録をまとめたものです。

地域おこし協力隊が見た  
山形県高畠町立二井宿小学校の1年

# はじめに

二井宿地区は、山形県高畠町の北東部に位置し、山形県上山市と宮城県七ヶ宿町に隣接しています。かつて二井宿は山形県に入る最初の宿場町として栄えました。現在は夏に美しい光を放つホテルが棲息し、冬は雪が降り積もる自然豊かな環境で直売所や古道ハイクなどが行われています。平成 28 年度現在、二井宿地区の人口はおよそ 1000 人、二井宿小学校の児童数は 35 人です。

二井宿小学校は地区唯一の小学校として明治 6 年に開校しました。かしこく（進んで勉強し、深く考える子ども）やさしく（思いやりの心を持ち、みんなと協力できる子ども）たくましく（体をきたえ、健康な生活ができる子ども）を学校教育目標とし、少人数、小規模を最大限に生かした指導、いのちをつなぐ活動として食農活動に取り組んでいます。

地域おこし協力隊とは、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、都市住民など地域外の人材を地域の新たな担い手として受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持、強化を図っていくことを目的とした制度です。（総務省 HP より）

山形県では、平成 28 年度現在およそ 100 人の地域おこし協力隊がおり、高畠町では平成 27 年度から 4 人が活動しています。

本書は平成 27 年 10 月に埼玉県から山形県高畠町に来た地域おこし協力隊が二井宿小学校を訪問した平成 27 年 11 月から平成 28 年 10 月までの記録をまとめたものです。

P01 はじめに

P03 二井宿小学校の 1 年

P14 おはなしをききました

P15 放課後の二井宿

P17 おわりに



## 4月 種芋（じゃがいも）植え



畑の先生は、90歳を超える佐藤吉雄さん。種芋を芽が出るようにカットします。いつも家の手伝いで野菜を切っている子どもたちも柔らかい種芋を切るのに一苦労。どの芽を残したらいいか吉雄さんに質問します。切り終わったら、腐敗菌が入らないよう切り口に石灰をまぶし、いよいよ、畑へ。切り口が下になるように芋を並べて、土をかけました。

80歳の年齢の差を感じさせない先生と子どもたちの様子は新鮮でした。畑の中に入ればカエルを見つけ、みんなで追いかけて、幼虫を見つけると土の中に選んであげていました。畑はさまざまな出会い、学びが生まれる空間です。



## 5月 田植え



1列に並んだ子どもたちは苗を3、4本とって線に沿って植えていきます。手持ちの苗がなくなると「苗なーい！」と大きな声が。どこからともなく、苗が飛んできます。しばらくすると田んぼに規則正しく緑が並びました。「お米は田植えをすれば終わりではありません。田んぼは特にこれからの管理が大事。しっかり手入れをあげてくださいね。」田んぼの先生の言葉を胸に、これからおいしいお米になるようみんなで管理していきます。

私は今まで、田んぼに入ったことはありません。田んぼは日本のいたるところにあります、実際に田んぼの中に足を入れるということは滅多にないものです。二井宿小学校では3年生から田植えを行い、上級生になると水の管理まで行います。お米は手間隙かけて大切に育ててやっとできるもの。4年かけてしっかり学ぶ子どもたちは「ご飯をいただく」ということを身をもって知るのでしょね。



## 7月 畑の手入れ



夏になり、緑が豊かになってきましたが、このほとんどが雑草！子どもたちも太い雑草をみんなで引っ張ります。せっかく実っていた小さなスイカは鳥に食べられてしまいました。「ねー！こっちなってる!!!」と新しいスイカを見つけると、苦い経験をもとに、鳥に気づかれないよう抜いた雑草で覆い隠しました。

一緒に作業すると雑草は太い、根が深い、抜いたと思ったら途中で切れるの三拍子。雑草も大切な植物などときれいごとを言っているのは作物はできません。子どもたちに雑草がどれなのかを教えてもらい、許す時間のかぎりみんなと一緒に雑草と格闘しました。



## 8月 じゃがいも収穫



4月に植えたじゃがいもを収穫。じゃがいもを運ぶ作業は大仕事。みんなで運んだじゃがいもを計算すると170kgを超えました。給食で食べるために涼しい場所に新聞紙を広げた上で保存します。そんな子どもたちに公民館からスイカの差し入れが。みんなで種をとばし、楽しみにしていたプールへ一直線。



小学校時代、1ヶ月もあった夏休み、どうして過ごしたのかあまり思い出せません。クーラーがかかった部屋で過ごしていたからかもしれません。高畠で迎える初めての夏は、太陽がざんざんと輝き、汗が止まらないほど暑いけれど照り返しでじりじり蒸し蒸しする暑さとは違う、心地よい暑さ。その中で、じゃがいもを収穫して、すいかの種を飛ばして、冷たいプールに入って過ごす夏休みなんて私の憧れの夏休みです。



# 9月 稲刈り



田植えをして大事に育ててきた稲は黄金色に輝く大きな稲になりました。使い方を間違えると危険な道具になる鎌の使い方を教わり、真剣に稲刈りに取り組みます。稲を刈るのも、束にするのも、持つのも大変。上級生が下級生に指示をしながら進めていきました。束ねた稲は、「くいがけ」と「はせがけ」で干しました。



10月に高島に来た当初、高島のいたるところに並ぶわらの固まりはなんだろうと思っていました。その正体は「くいがけ」でした。田園風景が広がる高島の秋の風物詩のひとつです。一方で「はせがけ」を見ることはほとんどありません。地域によっては名前は異なりますが「はせがけ」が一般的なところもあるようです。地域によって違いがあることを学ぶと、田んぼを見る目が変わってきました。

# 10月 収穫感謝祭

授業で学習してきたことや取り組んできたことを中心とした学習発表会のあとに、収穫感謝祭を行いました。収穫したお米81kgは地域の方々とお餅にいただきました。収穫した野菜は地域の方に販売しました。1年生は「ピーマン、サツマイモ」2年生は「紫いも、かぼちゃ」3、4年生は「じゃがいも」5、6年生は「もち米、人参、ポップコーン」を準備し、とても好評で、すぐに完売となりました。手間暇かけて世話してきた子どもたちにとっては、この上ない喜びでした。売り上げ金は今後の野菜作りのために使われます。(二井宿小学校教職員より)



# 11月 駅伝大会

広い青空、赤く色づいた山々のもとでの駅伝大会。仲間からのたすきを繋ぎ、ゴールへ一直線。  
駅伝大会が終わったあとは、チームで反省会。1年生から6年生まで発言する全員が主役の駅伝大会です。



# 12月 給食感謝の会



二井宿小学校の給食は「顔が見える給食」です。子どもたち、地域の方が作った野菜が、子どもたちから見える調理室で給食になります。今日は、給食感謝の会。いつも野菜を作ってくれる地域の方、調理してくれる調理員さんに感謝して、ランチルームで一緒に給食を食べました。



コテージのようなランチルームで食べる給食は作った人が分かるから安心して、みんなでおいしく食べることができます。驚いたのは、給食を残す子どもが見当たらなかったこと。実際、残食がほとんどないそうです。「好きな時間は給食。」「嫌いな食べ物はない。」と教えてくれた子どもたちに納得しました。

二井宿小学校の給食の野菜をつくる「やさしいの会」のみなさんの野菜作りは、減農薬で、ミネラルを多く含む肥料を使うなどの工夫をしています。給食の野菜は量を調整する大変さがあるけれど、子どもたちと給食を食べる機会は楽しく、励みになるとお話してくださいました。

# 2月 ちびっこ語り部

畑の先生は、語り部に。佐藤吉雄さんは子どもたちに地域に伝わるお話をしてくれます。子どもたちは一生懸命耳を傾け、吉雄さんの語りの世界に入っていました。そんな中、6年生は語り部に挑戦。地域の方に教わりながら語りを練習し、地域の方たちの前で披露しました。



「昔、むかし、二井宿峠から誰が転がしたかだんごがひとつころころ転がってきたんだ」と、地域の言葉でお話をする語り部は、地域のことを伝える大切な資源です。高島では多くの小学校で語り部を取り入れています。町内の小学校で民話フェスタも行われたり、浜田広介記念館でも子どもたちによる語りが行われたりしています。多くの人の心を惹きつける語りは、子どもたちの間で、大人気なんだと。とうびんと





卒業生は、中学校の制服を身につけ卒業式へ。在校生全員、家族や地域の方々が卒業生を迎えます。卒業生一人一人が大きな声で自分の言葉で思い出や中学校への夢を伝えました。在校生から卒業生へ送る歌は地域全体に響きました。

私自身の小学校の卒業式は印象に残っていません。それは、上級生や下級生と関わる機会がなかったからだと思います。二井宿小学校の卒業式では子どもたちは卒業生も在校生も涙を流していました。慕っていた下級生、頼りにしていた6年生とのお別れに子どもたちの胸がいっぱいになったのだと思います。私ももらい泣きしてしまいました。卒業式が終わった後、卒業生と在校生がお互いエールを送る姿には、別れの悲しみを乗り越えて成長する強さを感じました。

## 二井宿小の先生に おはなしをききました

**那須先生** 米沢市出身  
 県内の小学校を経て、二井宿小学校に赴任し今年度（H28年度）7年目。

私が二井宿小学校に赴任した当時、子どもたちが一輪車（手押し車）を慣れた手つきで運び、土作りのために畑に牛糞を撒き散らす様子を見て、ワイルドさに驚きました。現在の子どもたちも人数は減りましたが、とても頑張って栽培しています。自分たちで育てた野菜、地域の方が提供してくださる野菜が並ぶ給食は、残菜がほとんどなく、子どもが野菜を食べられるようになるきっかけになっていると思います。そして食への感謝の気持ちを持つという基本が身についています。たくましさ、しっかり食べるということは子どもたちの心も体も成長することに大きくつながっていると思います。

**稲垣先生** 宮城県岩沼市出身  
 宮城県の小学校、山形県の中学校を経て、今年度二井宿小学校に赴任。

はじめて山形県の小学校に赴任しましたが、畑の作業や自然に囲まれた環境に驚きの連続でした。今までの小学校も畑の作業がありましたが規模が小さく、野菜を植えて収穫するだけの作業でした。一方、二井宿小学校では自分たちで育てる野菜や目標収穫量を決めることから始まり、収穫した後もおいしい調理法を調べて、実際に調理するところまで行きます。朝、当番制で水やりを行ったり、畑の手入れをしたりと子どもたちは自分たちで育てるという自覚を持って意欲的に行っています。感性が豊かでしっかりした子どもたちだと感じています。

## 二井宿小の卒業生から メッセージをいただきました

**中川 愛美さん** 17歳 長井高校

小学校では楽しかった思い出がいっぱいありました。少人数だったので自分の意見や考えが大きく影響しました。そのおかげで積極的に物事が言え、行動できると思います。また二井宿は山に囲まれていて自然が豊かなのでそれを活かした農作をするという授業がありました。地域の先生に教えてもらい、いろいろな作物を作って、給食で使ったり、地域の方々に販売したりしました。二井宿でしかできないことが多く、地域の方々と多く触れ合えるということもいいことだと思います。私は、そんな二井宿が大好きです。

**島津 諒さん** 15歳 高島中学校

小学校では「畑」の授業があり、地域の方々に農業について教えていただき、自分たちで野菜や米を作っていました。秋には収穫感謝祭という行事があり、育てた野菜の販売や地域の方々へのもちの振る舞いなどをします。自分たちの育てた野菜は給食にも出るため、デザートが出る日やバイキングの日もありました。二井宿は、野菜がおいしく、直売所などもあります。僕は、二井宿の「食」が魅力のひとつだと思います。

# 放課後の二井宿

地域の取り組み



## 二井宿放課後子ども教室

水曜の放課後、土曜日や夏休みに公民館を開放し、英語教室、季節の伝統行事や自然に親しむ体験活動等を行っています。

## 二井宿スポーツ少年団

レスリングを行うマット活動、バスケットボールを中心とした球技活動など総合的な体力づくりを行っています。

## 二井宿わくわくプロジェクト

東北芸術工科大学コミュニティデザイン学科の学生が小中高生を対象とした交流の場「おちや子屋」や、クリスマスパーティーをはじめとする企画を実行しています。

放課後子ども教室は地域の  
人々とのふれあいを通して、地  
域や季節を楽しみながら学ぶ機  
会になっています。

スポーツ少年団では体力向上  
を目的に、基本的な運動をバラ  
ンスよく実施しています。運動  
が苦手な子どもも楽しむことが  
でき、将来どんなスポーツでも  
はじめることができる体づくり  
は、子どもの体、将来が考えら  
れており、スポーツの取り組み  
方について考えさせられました。

二井宿地区の大人たちは、考  
え方はそれぞれ異なりますが、  
子どものために何ができるかを  
話し合い、地域づくりを行って  
きました。地域にまとまりがあ  
ると感じるの子どもを大事に  
する思いが地域の中で共通して  
いるからだと思います。子ども  
を大事にする姿勢、大学生を受  
け入れ、積極的に新しい取り組  
みを行う姿勢は二井宿地区の特  
色だと感じました。

二井宿地区公民館神保館長か  
ら一言いただきました。

子どもの元気な姿を身近に感  
じることは地域の活力源だと  
思います。どんなに人口の少  
ない地区でも小学校の存在は  
欠かせないものです。

# おわりに

## 学校支援コーディネーター 前田礼子さんより

二井宿小学校では、9年前から子どもたちの野菜づくりのお手伝いや、見守り隊、語り部、読み聞かせなど、子ども達の豊かな学びと育ちのために地域の人たちによる学校支援活動をしています。地域の人たちは、学校支援のほかに卒業式やスクールコンサートなどにも参加させていただき、子どもたちからたくさんの感動と元気をもたらしています。

二井宿小学校の子ども達は何事にも積極的で、きちんと目を見て話を聞くことができる素直な子どもたちです。読み聞かせなどで感想を求められると、元気に手をあげて発言してくれます、少人数だからこそ一人の存在が大きく、そのことを一人ひとりが自覚を持って行動しているのがよく分かります。

一方で、自分とは違う多種多様な人との出会いや交流の機会が少ない環境にいます。自然豊かな地域の中で育てられた、純粋で感性が豊かな子どもたちには、世の中の広さを知ってほしい、こんなにいるんな人がいるのだということを知って欲しい。そのためにも小さいときからたくさん本を読んで豊かな想像力を養い、さまざまな人を受け入れる力、困難に負けない力、どこにいても自分らしく生きることのできる力を身につけてほしいと思います。

## 二井宿小学校より

地域や保護者に「信頼される学校」、地域や保護者が「元気になる学校」、そして子どもたちや教職員にとって「日本一居心地の良い学校」を合言葉に、日々の学校経営に取り組んでいます。それには学校にいる私たち、子どもと教職員や地域と学校、保護者と学校が「信頼し合い、明るく元気で、いつでもいつも一緒に活動していきたいような関係を築いている」集団でなければならないし、そうした「人」の育成が大切であると考えています。

このたび、地域おこし協力隊の古畑さんが作成したこの冊子には、二井宿小学校の熱い思いの詰まった取組がたくさん紹介されています。子ども達の元気で生き生きとした姿を感じることができます。学校の取組をこのような形で地域の内外に発信していただけることは、本当にありがたく感謝申し上げます。

これからも保護者や地域の方々のご協力を得ながら、「日本一居心地の良い学校」をめざしていきます。

高畠町を訪れ、まずは町について知ろうと小学校の社会科副読本を読みました。内容を深く知りたいと思い、平成27年10月下旬に小学校の先生を訪ねたことが、二井宿小学校を訪れたきっかけでした。教職員の方々には熱心に応えてくださり、その後もさまざまな行事、取り組みに誘ってくださいました。新年度となり、体制が変わってからも親身にご対応いただいた金子校長先生をはじめとする、教職員の方々に厚くお礼申し上げます。その中でも本書制作でご協力いただきました太田教頭先生、畑の案内や児童向けの新聞を発行したいという私の要望に毎度応えていただいた教務主任の舍利倉先生には重ねて感謝申し上げます。

このような柔軟な姿勢が小学校のさまざまな取り組みを行うことを可能にしているのだと思います。そして地区の取り組みにおいても、神保館長をはじめとする二井宿地区公民館の方々、中川広幸さん、佐藤明さんには二井宿について、子どもたちと地域の関わりについて知る機会をいただきました。ありがとうございました。

自然豊かな環境を存分に活かした教育の中で生きる子どもたちは、純粋で輝いています。IT化、知識の陳腐化が叫ばれる中、自ら体験する機会はとても貴重で生きる力を育む上で大事なことだと思います。そして、その体験をもとに自ら考え、課題解決、創造する力を身につけることができるのではないかと思います。しかし、私は教育批評ができるような教育の専門家でも子どもを持つ親でもありません。そんな私が胸をはって言うことは、もし私が子どもに戻れるのなら、二井宿小学校に通ってみたいということです。田んぼでどろんこになり、紅葉が綺麗な道をかけ回り、雪の中で遊びたいと思います。少しおせっかいな地域のおじさん、おばさんもいい思い出になると思います。「地元」の感覚というのは、新興住宅地で育った私にはとてもうらやましいものです。

私をあたたく受け入れてくださった二井宿小学校、地区のみなさまをはじめ、子どもを持つ県外の方々、教員を目指す先生方のたまごの方々に二井宿小学校や二井宿地区を知るような機会となれば幸いです。

山形県高畠町地域おこし協力隊 古畑 茉莉子

地域と心をつなぐ小学校

発行者 山形県高畠町役場企画財政課

〒992-0392 山形県東置賜郡高畠町大字高畠 436 番地

編集者 山形県高畠町地域おこし協力隊 古畑 茉莉子

取材協力 山形県高畠町立二井宿小学校 二井宿地区公民館 二井宿地区の方々

写真提供 山形県高畠町立二井宿小学校 二井宿地区公民館

発行年月日 平成29年2月1日